

道路関係事業のポイント

1. 平成18年度までの主な道路整備効果等

(1) 名古屋圏における環状道路の整備効果

- ・東海環状道、伊勢湾岸道等の開通(～H17.3)により、ゴールデンウィーク中の渋滞が約5割減少。今年も同様の傾向。
- ・去る7月25日に発生した東名(名古屋IC～春日井IC)通行止め時に、東海環状道が迂回路として機能。最大330台/時間の交通が迂回。
- ・東海環状道の開通により物流の効率化が進展。東海環状道沿線に工業団地が続々と進出。開通15年前の約4倍。

(2) 中山間地域の新たな連携効果

- ・権兵衛峠道路の開通(H18.2)により、高次医療施設の選択肢が拡大。病院間の搬送時間が約15分短縮(木曽病院 伊那中央病院)。
- ・権兵衛峠道路の開通により、伊那～木曽地域の観光客が増加。木曽町「よしなかやかた義仲館」では、開通1年前の約2.5倍。

(3) スマートICによる地域活性化の支援(社会実験による検証)

- ・現在、東名富士川SA・遠州豊田PA、東名阪亀山PAにて社会実験実施中。利用交通量は全箇所増加傾向。
- ・亀山PAは、約1,300台/日の利用があり、亀山IC周辺の交通混雑が緩和。工業団地へのアクセス時間が約7分短縮。

2. 平成19年度 概算要求のポイント

(1) 安全・安心を支える国土基盤づくり

大規模地震にも安全な道路ネットワークが概ね完了！

- ・「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」により、平成19年度に管内約1,000橋の耐震化が概ね完了(98%)。

「平成18年7月豪雨」等を踏まえ、防災対策を強化！

- ・「平成18年7月豪雨」による災害等を踏まえ、斜面等の現状を広域的に把握するための防災点検を実施。また、危険度に応じた適切な対策を推進。
- ・道の駅等において、災害等の緊急情報や施設情報等を次世代車載器(カーナビ等)に提供する実証実験等を開始。

(2) 「中部のげんき」を支える国土基盤づくり

伊勢湾スーパー中枢港湾等へのアクセスルート上の

ボトルネック箇所が解消!

- ・平成19年度は、一般国道365号員弁バイパス、及び一般国道473号金谷相良道路の全線供用により、当該事業区間の国際標準コンテナ車通行支障区間を解消。
- ・物流の効率化等を支援するため、港湾・道路の施設管理者や物流事業者等と役割分担するとともに、中部のモノづくりを支える国際物流基幹ネットワークの構築に向け、東海環状自動車道、名古屋環状1号線の環状道路整備、及び一般国道23号名豊道路・中勢道路、一般国道1号北勢バイパス等環伊勢湾地域の諸都市と港湾・空港を連絡するバイパス整備等を推進。

(3) 良好な環境・魅力ある暮らし・地域を支える道づくり

NPO等との協働による新しい道づくり、地域づくりを推進!

- ・NPO等との協働により防護柵等の簡易な塗装や補修を行うプチメンテナンス、地域住民団体、企業等と道路管理者が協定を結び植栽等の美化活動等を行うボランティア・サポート・プログラム等を推進。

3. 平成19年度の事業実施に向けて

平成19年度開通予定延長は例年の2倍以上の約86km!

- ・平成19年度は、社会資本整備重点計画の最終年度、また、まんなかビジョンで当面取り組む主要なプロジェクトの目標年としてのラストスパートの年。

主な開通箇所

中部縦貫自動車道(高山清見道路)、三遠南信自動車道(飯喬道路)、

一般国道42号熊野尾鷲道路、一般国道1号静岡バイパス・浜松バイパス(新天拡幅)、

一般国道41号美濃加茂バイパス、一般国道153号足助バイパス 等

- ・一方、平成18年度に公表された「道路整備の中期ビジョン(案)」や「国際物流基幹ネットワーク」の早期完成に向けたスタートの年。
- ・「選択と集中」により、スピード感を持って投資効果の高い事業に重点投資。